

「落札率は予定価格に対する落札額を示したものにすぎない」との市見解改めよ 総務委の審議の中でマスコミ報道や鉄道・運輸機構の対応示しつつ厳しく批判



上越市は市が行っている入札に「高落札率になっているのは談合の疑いがある。速やかに是正に乗り出すべきだ」などの質問に答えて、「落札率は予定価格に対する落札額を示したものにすぎない」という見解を繰り返しています。

私は15日の総務常任委員会での問題を取り上げ、市側の姿勢を厳しく批判しました。

その際、朝日新聞「キョウワード」(2011年10月16日)が「落札率」について、「100%に近いほど落札業者の利益が大き

く、談合によって落札率が上がれば、それだけ税金が無駄遣いされることになる。全国市民オンブズマン連絡会議は「90%以上は談合の疑いがあり、95%はその疑いが極めて強い」と指摘している」と書いていたりや鉄道・運輸機構が北陸新幹線の消融雪設備工事の入札談合を受けて落札率95%以上の工事を対象に入札・契約監視機能を強化

する方針を打ち出していることなどを紹介しました。市の担当者は高落札率に関する市の見解は総務省などの指導からのべたものではなく、市独自の判断であることを明らかにしました。が、ただちに改めるべきです。



「請願者の説明、気持ちはよく理解できる。ごく当たり前の要求だ」などのべ賛成しました。写真は請願の趣旨を説明する曾根きよ子部長です。

上越民主商工会婦人部のみなさんが提出した「所得税法第56条廃止の意見書を国に提出することを求める請願書」の審査が15日の総務常任委員会で行われました。採決の結果、賛成4、反対3で採択されました。

審査に先立ち、同婦人部の曾根きよ子部長は、「所得税法第56条の『配偶者その他の親族が事業に従事したとき、対価の支払いは必要経費に算入しない』は時代錯誤で人権問題だ。国連もこの条項の廃止を勧告している。ぜひ、廃止を求める意見書を国に提出してほしい」と訴えました。

中山間地集落支援体制のあり方などを再検討へ
市では高齢化が進んでいる中山間地域の集落を対象に、集落づくり推進員の配置、地域おこし協力隊派遣などの取り組みをしてきました。市は19日、集落づくり推進員の担当区域をどうするか、推進員と市の担当職員との連携の在り方などについて検討を開始していることを明らかにしました。これは私の質問に答えたものです。



【ハマエンドウ】マメ科の多年生。漢字で「浜豌豆」と書きます。花期は4月から7月。濃紫色の花を咲かせます。いまでも咲いているものがあります。写真は18日、柿崎区の海岸にて撮影しました。

「みらい」など一部の会派が青色申告の条項



日本共産党演説会に1000人

日本共産党街頭演説会が17日、長岡駅前にて行われ、1000人近い聴衆が集まりました。市民連合@新潟や社民党、自由党の代表も連帯の演説をしてくださいました。

日本共産党の西沢博県政策委員長は応援弁士に感謝した後、安倍政治に対する市民の怒りが大きくなっていることを紹介、補欠選挙、解散総選挙で安倍政治ノーの審判を下そうと訴えました。

小池晃書記局長は、政府与党が臨時国会冒頭解散を目指していることをとりあげ、「あまりにも露骨な疑惑隠しだ。いま解散すれば多数をとれると勘違いしているのであれば、大間違いであったことを思い知らせようではないか」とのべました。また、北朝鮮のミサイル発射などに触れ、「経済制裁の強化と一体に『対話による解決』にふみだせ」と訴えました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1825 2017.9.24
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら
橋爪法一 検索

これは危ない。腰の痛みがいつもとは違ってきた。まずいぞ。そう思ったのはほんの数日前です。

正直言つて、何か重いものをもったわけでもないし、物を持つときに体のバランスを崩したわけでもない。原因らしいものがないかと訊かれれば、最近しつかり休んでないすけね、と答えます。どうあれ、背中でものすごくいやな感じがしたのです。

その日は朝から新聞配達などで動き回っていました。連れ合いに「腰の痛み、ちよつとまづくなつてきたみたい」と言うのと、「じゃ、うつ伏せになつて寝てみた……」と言います。それくらいで治るんだらうかと思ひながらも、少しでも楽になればありがたいと、一時間ほど言われるままにうつ伏せ状態で休みました。

私が初めてぎっくり腰になつたのは二〇代の後半の冬の日でした。その日のことはいまでもハッキリ憶えています。

朝の搾乳を終わらせ、牛乳缶に入れた牛乳がじゅうぶん冷えてから、耕運機にキヤタビラを履かせた運搬機で牛乳缶を村屋まで運びました。

当時、村屋には旧源農協があり、道路の近くには、二階建ての小さな建物がありました。その一階だか地下に牛乳缶を冷やす水槽があつたのです。そこまで、わが家から運搬機で二〇分ほどかかりました。

その日は、雪の降りがひどく、除雪した道の幅が狭くなつていました。運搬機の荷台から私が牛乳缶を降ろし始めたときのことでです。そばを通ろうとした車が急にクラクションを鳴らしたのです。たぶん、車がそばを通るので私に気をつけてということだったのでしょうが、私は、降ろしかけた缶を大急ぎで降ろしました。その瞬間です、ぐつぐつという鈍い音とともに背中がふ

にやふにやになつてしまったのは……。

不思議なことその後、牛乳缶をどうしたかはまったく憶えていません。自力でなんとか降ろしたか、農協の職員さんに頼んだかのどちらかでしょう。いずれにせよ、その後、数日間ほとんどにしゃがむこともできなければ、立つて歩くこともままなりませんでした。

以来、ぎっくり腰はクセになつてしまいました。腰の位置も決めないうちに重い物を持つて、ぎっくり腰になつたこともあれば、風呂の中から何も入っていない洗面器を取ろうとしてふにやふになつたこともあり。そんなことで一年に一、二回はぎっくり腰になりました。

酪農という仕事は、一日たりとも仕事を休むことができませんでしたから、長期間休むことは絶対に無理です。私は牛飼いの仲間から紹介してもらい、柏崎市与板にあつた整体院のお世話になりました。

ちようど、そこでの治し方が私の体には合つていたようで、背中を引っ張り、外れていた骨をカシヤツとはめるような感じですぐに治してもらつたものです。

でも、その整体師さんはじきに亡くなり、近間の鍼灸治療院や整体院に助けもあらうことが多くなりました。今回も最終的には鍼灸治療院の世話になり、なんとかいま動いています。

長年、ぎっくり腰に悩まされてきた私ですが、幸いなことに長期間病院に入って治療をするといった事態に陥ることなく、今日に至っています。それは、これ以上頑張つたらおかしくなつてしまうという限界点を体で判断できるよになつてきたからです。そのおかげで、いろんな活動を継続できています。何事も無理をせず、頑張り続けることが大事ですね。

住宅密集地帯の大規模火災対策はまちづくりの視点も必要

上越市は今年4月、「大規模火災時における消火体制に関する検証会議」を立ち上げ、作業を進めています。

15日の総務常任委員会で私は、市

内でも大規模火災はありうるとして、まちづくりの視点を入れた検証も必要ではないかと訴えました。

その際、私は昨年12月26日、NHKの「時論公論」において、今後、

大規模火災を引き起こさないために、①密集市街地を洗いだし、火災に強いまちづくりをすすめること、②最近の地域の実情を踏まえた消防力のあり方を考えること、③火災に対する警戒を再確認すること、が重要なポイントになるとして紹介しました。そのうえで、住宅密集地対策として、「不燃領域率」（地区内に公園などのスペースや鉄筋コンクリートなどの燃えにくい建物がある割合）を増やしていくことが重要ではないかと訴えました。

これにたいして防災危機管理部長は、「まずは国の有識者会議でまとめた項目に沿つての検証となる。まちづくりは時間がかかるので、今回の検証会議ではこの視点



は入れていない。今後の課題だ」と答えていましたが、まちづくりの視点での議論の先送りはどうかと思いましたね。（写真は糸魚川大火後の市街地）

検証会議は年度内にまとめをするそうですので、そこでまた議論をしていきたいと思ひます。

私の一般質問は26日です

9月議会の一般質問が21日から始まっています。今回は25人が質問に立ちます。私は核兵器禁止条約、災害対策、指定管理者制度について市長に質問します。質問は26日の午後になる見込みです。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	9月13日(水)	9月20日(水)
上越南消防署	0.047	0.047
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.037	0.050
頸北消防署	0.047	0.047
頸南消防署	0.060	0.050
東頸消防署	0.053	0.053
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.050	0.043